

集まり、繋がい 四半世紀！！

2月16日（土）、
シニア自然大学校
25周年記念コンサート
開かれる



第2部後半、プッチーニ「私のお父さん」をソプラノ・松原みなみさんが魅力たっぷりに歌いきり、拍手大喝采の客席でのお客さんどうしの会話。「今の歌の中身知ってる？」『知らん。お父さんを賛美してる歌やろ？パパすてき！みたいな』『チャウ、大好きな彼との結婚を許してくれないと、“私は川へ身を投げて死んでしまうわよ”、と娘がお父さんを脅かしている歌なんよ！』『へ～え、マジで!?!』…歌はプッチーニから終曲のレハール「メリーウィドウ」へ。そしてアンコール「乾杯の歌」で、520人の聴衆の興奮は頂点に達しました。



濱面誠
代表理事

阪急梅田駅前、茶屋町界隈の景観はずいぶん変わりました。20階クラスの超高層ビルが立ち並び、以前そこに何があったのか思いだせません。その一角、大阪工業大学ビル「OITタワー」3階の「常翔ホール」が、シニア自然大学校25周年記念コンサートの会場です。ゆっくりゆっくり動いていて、人が乗ると速くなる優れもののエスカレーターで3階へ。眼下には、シニア自然大学校の幾つものグループが活動の拠点としている「梅田東コミュニティ会館」も見える常翔ホールのロビーには、準備や会場整理を担当する役員の皆さんが、開演4時間前だというのに三々五々集まり始めていました。

そして、今日の演奏会を取り仕切られる大阪教育大学教授・中務晴之先生も、他の演奏者に先駆けてスタンバイ。

「これまではずっとシティカレッジの関係だけで、カレッジ10周年演奏会もお手伝いしましたが、シニア自然大学校全体のイベントに携わるのは今回が初めてです。」と、還暦を超えておられるとは思えないほど若々しく端正な先生の表情に、わずかに緊張の影が走ります。

階段状の立派なホール。570の全座席には抽斗ふうのテーブルがついていて、講演会の時などに便利そうです。

「満席に近いチケットが売れましたが、実際にどれだけ来ていただけるか心配で」とは、今日の司会進行役の石原田理事。…大丈夫、シニア自然大学校の底力を信じましょう。

11時半からのリハーサルは本番さながらの緊張感で、ホール内はピーンと張りつめた空気が漂います。一方ホールの外はといえば、開場13時半というのに12時台から行列ができて、開場定刻にはざっと300人ぐらいのお客さんでロビーは溢れかえりました。そして、予定より数分遅れての開場、プログラムをもらうのももどかしく先を争って「良い席」めがけて走る、「全席自由コンサート」特有の風景が。



中務 晴之先生



魅惑のアンサンブル
左より:中務先生 中務雅子さん 平井菜月美さん 徳安芽里さん



サイモン・ポレジャコフさんによるコントラバス独奏
ピアノ伴奏は濱田笑里さん

14時開演。石原田さんに紹介されて挨拶に立った濱面誠代表理事は、「設立から25年、各大学はじめ多くの皆様のご支援に支えられ

て当校の今日がある。この節目の年に決意を新たに、更に充実した活動を通じて社会の期待に応えていきたい。」と挨拶されました。

演奏会は、全体をプロデュースされた中務晴之先生と、選りすぐられた演奏家の皆様（ヴァイオリンの中務雅子さんは、晴之先生の奥様！）により、第1部・魅惑のアンサンブル（器楽演奏）、第2部・オペラ ガラコンサート、と進められ、日ごろクラシック音楽に触れる機会の少ない私たちの目の前に、次々と魅力に満ちた世界が展開されました。第1部の中務先生は、フルートにピアノに解説にと文字どおり八面六臂のご活躍、あの大フィルの首席奏者サイモン・ポレジャコフさんによるコントラバス独奏の深い響きは貴重な感動体験でした。そして第2部では中務先生から解説役をバトンタッチされたテノール・松原 友さんと、ソプラノ・松原 みなみさんによるソロ&デュエット（お二人はたまたま同姓なのであって、夫婦でもなく、血縁関係ありません、との注釈が入り、場内に笑いが）を軸に華やかな雰囲気で行進、「フィガロの結婚」「カルメン」を経て、あの「私のお父さん」へと続いていったのです。

アンコール後の拍手鳴り止まぬ中、当校・金戸副代表理事が「今日の演奏会のために協力いただいた全ての皆様に感謝します」と締めくくられ、2時間を超える記念演奏会は幕を閉じました。…出口に向かう皆さんの満足そうな顔・顔。「クラシック音楽を至近距離で聴いたのは初めてだが、今までが“食わず嫌い”だったことが判った」「終りに近づくにつれて盛上っていった。言葉の意味が判ればもっと楽しいだろうね」「うちの学校も25年たってここまでの演奏会を主催できるようになったのか、と感慨無量ですね」…

終演後のロビーは、「第三部」に備えて仲間を探す修了生たちでごった返していました。この日、梅田の夜に何十組もの同窓会の花が咲いたことでしょう。

中務先生はじめ出演者の皆さま、素晴らしい演奏を有難うございました。そして記念演奏会の企画・運営に携わられた全ての皆さま、お疲れさまでした！！



松原友さんと松原みなみさんの熱唱



コンサート後のひと時



3階ホールを埋め尽くした 開場前の賑わい

連載予告 「ハチの世界」の執筆にあたって

神戸大学農学部名誉教授 内藤 親彦

2019年4月から1年間、私が専門とするハバチ類を中心に、ハチの世界を紹介させていただきます。ミツバチやスズメバチは知っているが、ハバチなんて聞いたこともないと言う人が多いと思います。コウチュウ類やチョウ類に比べると、ハチ類は知名度の低い昆虫ですが、実は名前の付けられたハチが世界に約13万種、日本に約4,500種もいるのです。まだ名前の付けられていない種はそれ以上にいると考えられています。ハチ類の主な仲間は、腰にくびれがなく寸胴で毒針を持たず、幼虫は植物を食べるハバチ類、腰がくびれ、弱い毒針を持ち、他の昆虫類などに寄生するヤドリバチ類、それに、腰がくびれ、強い毒針を持つ有剣類などです。有剣類にはスズメバチ類の他、昆虫やクモを狩るカリバチ類と花の蜜や花粉を集めるハナバチ類が含まれます。

ハチ類の大きな特徴の一つは、産雌性単為生殖という特殊な生殖法を獲得していることです。この生殖法では、受精卵はすべてメスに、不受受精卵も発生してすべてオスになります。性の革命とも言える生殖法がハチ類の進化に大きな役割を果たしていることもお話します。

ハチの世界の紹介に興味を持っていただければ幸いです。

内藤 親彦 先生の経歴:1942年神戸市に生まれる。兵庫県立長田高校、県立兵庫農科大学(現神戸大学農学部)を経て、大阪府立大学大学院農学研究科博士課程修了(農学博士取得)。1973年神戸大学農学部助手に就任、1983年助教授に昇任、1992年教授に昇任、2006年定年退職と同時に名誉教授に就任。2001~2002年日本昆虫学会会長。現在、兵庫県生物学会会長、NPO法人こどもとむしの会理事長、佐用町昆虫館館長。専門分野:昆虫進化学、ハバチ類の分類と遺伝。主な著書:日本の昆虫 侵略と攪乱の生態学(東海大学出版会)、昆虫学セミナー 進化と生活史戦略(冬樹社)、応用昆虫学の基礎(朝倉書店)、ハチとアリの自然史 本能の進化学(北海道大学図書刊行会)、保全遺伝学(東京大学出版会)、原色日本産ハバチ・キバチ類大図鑑(北海道大学図書刊行会、印刷中)。